

'18 内部監査実務 マスター・コース

— 課題分野ごとの講義と自由討議で内部監査の本質を実感する —

開催主旨

企業の不祥事対策や内部監査の経営への貢献が注視される中で世界的に内部監査の見直しに関心が高まり、日本企業でも準拠性よりも改善提案への注力や経営監査の取組みなどに改善が見られます。こうした時代の要請に遅れずに、各企業の経営環境にふさわしい形で内部監査を進化させるには、内部監査の在り方を理論と実務の両面から整理して、企業独自の課題と対応方法を見定めることが肝要です。

そのためには、社内で監査経験を積むだけでなく、常にベンチマークとなる内部監査人協会(IIA)の指針などの新しい考え方や他社の情報に触れて、役立つものを取捨選択して、自社のスタンダードの継続的改善を図るというオープンで前向きの姿勢が重要です。本コースでは、単なる知識の提供や経験談の披露ではなく、内部監査の様々な実務経験を踏まえて講師が各テーマの勘どころとなる監査の進め方や考え方をたたき台として提供し、その後の質疑応答や自由討議を通して参加者の理解を深め、各自の課題解決の一助となること目的としています。各会のテーマに関心のある方や内部監査の実務のポイントを体系的に習得したい方にぜひご参加をお勧めいたします。毎回違うテーマを扱いますので一日単位の参加も歓迎いたします。

講師

公認会計士・公認内部監査人 米国公認会計士(現在 inactive) **藤井 範彰 氏**

20年近く会計監査に従事した大手監査法人では監査アプローチの研修・普及活動や公認会計士協会本部の活動(国際委員会副委員長、会計制度委員会副委員長、監査基準委員会委員他)にも専念。続く10余年は、内部監査、内部統制、リスクマネジメント、不正調査等に特化し、アンダーセン消滅後はPwC(中央青山監査法人)で活動した後、J-SOXの制度化を前に復帰した新日本監査法人(E&Y)で内部統制支援本部統括部長、ビジネスリスクサービス部長、FIDS(不正対策・係争サポート)部長等を歴任し、2012年、シニアパートナーを早期退任して、ホルボ・グループで日本の内部監査統括および同グループ会社UDトラックス(株)の監査役に就任。現在も監査役業務の他に藤井範彰公認会計士事務所として監査や不正関連の講演や研修及び執筆活動を続けている。



【最近の著書】「内部監査のプロが書く 監査報告書の指摘事項と改善提案」(同文館出版2016年)で2017年度日本内部監査協会青木賞受賞。他にも著書「内部監査の課題解決法20」税務経理協会2012年、論文「内部監査のアシュアランスの本質論」日本内部監査協会月刊監査研究2018年7月号、「内部監査報告書の本質論と実務対応」同2017年5月号等多数。

開催予定日

'18 9月6日 (木)	10月4日 (木)	11月15日 (木)	12月13日 (木)	'19 1月17日 (木)	2月7日 (木)	3月7日 (木)	4月4日 (木)	5月9日 (木)
--------------------	--------------	---------------	---------------	---------------------	-------------	-------------	-------------	-------------

スケジュール▶ I. 講 義 14:00~16:30

II. ディスカッション 16:30~17:00(毎回、藤井講師も参加します。)

※講義をベースに自由討議・意見交換の中から課題解決のノウハウ、ヒントを探り実践に繋げていただきます。

会 場▶ 第1回(9/6)のみ・主婦会館プラザエフ(東京・四ツ谷)

第2~9回……………一般社団法人 企業研究会 セミナールーム(東京・麹町)

第1回
'18
9/6(木)
14:00~16:30

経営に資する内部監査の仕組みづくり

~知っているようでできていない経営に貢献するリスク・ベース監査

経営志向が重視される中で、内部監査が進化していますが、それでリスク・ベースの監査になっていますか？リスク・ベースと口では言っても、その仕組みになっていない大企業はたくさんあります。経営目線でのリスク・ベースの本当の意味を監査人の責任解除およびアシュアランスというミッションとの関係を踏まえて解説します。その上で、日本企業の内部監査体制にありがちなガバナンス、人材およびインフラ面の問題とこれに対する体制づくりのポイントを検討します。最後に日本の内部監査に共通して見られる今日的課題についてお話しします。

1. 内部監査体制の構築とリスク・ベースの仕組みづくり
・内部監査のパターンと監査体制をデザインする検討項目 ・リスク・ベース監査の意味と仕組み作り
2. 経営に資する内部監査の整備のため課題と対応
—ガバナンス・人材・インフラに見られる問題点
3. 日本企業の内部監査の今日的課題

◎講義をベースとしたディスカッション◎
16:30 ~ 17:00

第2回
10/4(木)
14:00~16:30

内部監査のプロにふさわしい監査意見の書き方

～わかりにくい内部監査の保証概念と監査のプロとしての意見表明をわかりやすく解説

監査報告書に書かれた監査意見の文言は報告書の記載内容や実施された手続きと互いに整合していますか？監査の実施から報告までの一貫性は監査のプロとしての基本ですが、意外とこの相互関係がばらばらで全体の報告スタイルや書きぶりから専門性を疑われるような報告書を見かけることがあります。せっかく良い指摘をしても報告書の意見表明や本文の記載が論理的でないとプロの仕事には見えません。そこで今回はIIAの考え方などをベースにして、内部監査報告書の監査意見の書き方およびその意味と実務とのつながりを検討して標準となる文章モデルを提示します。内部監査の二つの座標軸とも言えるアシュアランスとコンサルティングの考え方とその実務への落とし込みを踏まえて、アシュアランスの監査意見の考え方および文章のパターンを監査人の責任や監査目的との関連で明確にし、改善提案重視の典型的な内部監査モデルの内容を紹介します。

1. 監査の価値を決めるコンサルとアシュアランスの監査実務への落とし込み
2. 内部監査報告書の監査意見の標準類型とそれぞれの考え方および報告書の全体様式
3. 現代の企業ニーズに合わせた改善提案型の内部監査アプローチのデザイン

◎講義をベースとしたディスカッション◎
16:30～17:00

第3回
11/15(木)
14:00~16:30

インパクトのある指摘と改善提案を導くスタンダード

～指摘と改善提案にインテリゼンスを与えて専門的な作品に仕上げる規律とルール

内部監査の価値を決定づけるのは、いかに経営にインパクトのある報告書を提示できるか、特に指摘事項・改善提案の出来栄です。今回は主に業務監査における指摘事項と改善提案の切り出し方、書式、文章表現など具体的な事例を提示して各社が体系的なスタンダードを作る材料を事例形式で提供します。この分野はIIAその他の実務指針が少ないこともあって、あまり検討もせずに社内の慣行を踏襲している企業が多く、それだけに見直しの効果は潜在的に高い領域です。これまで習慣的に続けてきた報告書の書き方を体系的に整理して改善するきっかけにしてください。

1. 業務監査における指摘・改善提案を導くロジックの組み立てと記載内容
・改善提案の3つのパターン、指摘事項に説得力を与える構成要素、リスクの記載要領など
2. 事例から感じ取る指摘と改善提案の勘どころ
ーケーススタディによる良い例・悪い例の検討

◎講義をベースとしたディスカッション◎
16:30～17:00

第4回
12/13(木)
14:00~16:30

不正対策の制度設計とこれを支える不正対応活動の在り方

～企業風土型など不正の分析と対応策および監査、調査、内部統制等の活動の検討

大手企業の不正事件が相次いで報道される中、内部統制が整備された大企業でなぜ不正が起こるのかという疑問の声が上がっています。そこで必要となるのは組織の不正対策の制度の在り方をゼロベースで見直し、内部監査をはじめ関連部門の役割や活動の方向を見定めることです。今回は企業の不正対策の在り方をガバナンス、組織風土、内部統制などを含めて検討した上で、その制度設計(ハード面)に実効性を与えるソフト面の不正対応活動を不正リスク評価、内部監査、不正調査および内部統制レビューの側面から解説します。内部監査としては、組織全体のあるべき不正対策を認識すると共に、活動面では不正リスクにフォーカスした不正監査の方法を整備し、併せて不正調査や不正リスク評価などへの関与にも備え、更には通報制度や事業部門・子会社におけるガバナンスや企業風土を対象とした監査への対応能力も期待されます。

1. 企業の不正対策のポイント
・不正リスクとコントロールおよびガバナンスとの関係 ーマクロとミクロで考える不正対応
・企業の不正対策の考え方と実務展開
2. 制度を動かす不正対策活動の実務のポイント
・不正リスクの評価の進め方 ・内部監査による不正リスク対応
・不正調査、通報対応、不正調査後の内部統制レビュー

◎講義をベースとしたディスカッション◎
16:30～17:00

第5回
19
1/17(木)
14:00~16:30

海外リスクに対応した内部監査の戦略

～日本企業の苦手な海外事業管理に対して、内部監査は何をすればよいか

経営の国際化が進みグローバルな視点からのリスク管理やガバナンスが重要となる一方で、日本企業の海外リスク対応の遅れが指摘されています。海外監査の数は増えても、定型的な業務監査が多く、海外リスクに対応した戦略的な動きはあまり見られません。手薄になりがちな日本企業の海外リスク対応に対して、経営を支える内部監査としては、何をすればよいか、これが今回の課題です。海外監査実務の詳細は次回のテーマですが、それに先立って、まずは日本企業に一般に見られる海外リスク対応の問題点を検討し、従来型の海外監査のどこに問題があるかを考えます。その上で、何をしに海外に行くかという監査の目的や戦略および方法を、業務領域だけでなくガバナンスやリスク管理などの経営監査も広く視野に入れて検討します。

1. 日本企業に見られる海外子会社のガバナンスの課題
2. 日本企業によるこれまでの海外内部監査の特徴と今後の課題
3. ガバナンスとリスク管理を意識した海外監査の切り口と対応方法

◎講義をベースとしたディスカッション◎
16:30～17:00

第6回
2/7(木)
14:00~16:30

失敗しない海外監査の進め方

～海外監査に固有の課題認識と対応策の解説、および問題事例の検討

海外子会社の内部監査には言葉の壁や法制度や文化の違いなど国内とは勝手が違う難しさがあるため、一段と高い監査の対応能力が必要です。しかしそこには進め方のコツがあって、問題となりやすい課題を意識して対応策を講ずることで失敗を避け、監査の出来栄も良くなります。今回は一般的な海外出張型の内部監査を中心に、海外監査を成功に導く実務上の留意点を解説します。とりわけ海外で問題になりやすい事項を想定して、監査の事前準備から計画、往査および報告までの全工程にわたって事例を含めて検討していきます。また、中長期的な視点からの海外監査の監査体制のあり方もグローバル監査体制までを視野に入れて解説します。

1. 海外監査チームによる海外監査の課題と対応策
・チーム編成、事前アレンジ、作業ステップと日程管理、監査アプローチ、監査報告会と監査報告書 など
2. 海外監査に特徴的な問題対応
3. 海外監査の成熟度に合わせた監査体制構築のポイント

◎講義をベースとしたディスカッション◎
16:30 ~ 17:00

第7回
3/7(木)
14:00~16:30

英文監査報告書の実務

～英文の報告書の標準文例と指摘・改善提案の事例、知っておきたいビジネス英語

海外監査を完結させるのは監査人が自ら書いた英文レポートです。たびたび海外の監査に出かけていても英語で監査報告書を書くのは自信が持てない内部監査人は少なくなく、報告書作成の外部委託も見られます。その背景には参考となる事例や文献が少なく実務研修の機会がないなどの事情があります。英文報告書は海外監査に残された最後の課題のようでもあります。英文も含めて報告書の作成までが内部監査人の仕事です。そこで今回は英文内部監査報告書の様式例や指摘・改善提案の事例を特に国内では見かけない指摘事例を交えて、留意点を説明いたします。また監査プロフェッショナルとして知っておきたい内部統制や監査に使う英語表現およびビジネス英語の流儀あるいは日本人が間違いやすい英文法など時間の許す限り紹介します。

1. 英文内部監査報告書の様式と標準文例 ・英文監査報告書の書式、構成および記載項目の考え方
2. 指摘事項、改善提案の英文事例の検討
・指摘・改善提案の英文事例によるロジックと文章表現
3. 監査プロフェッショナルとして知っておきたいビジネス英語の流儀
・内部統制や監査に使う英語表現、日本人が間違いやすい英語、監査人が留意すべきビジネス英語など

◎講義をベースとしたディスカッション◎
16:30 ~ 17:00

第8回
4/4(木)
14:00~16:30

対応が急がれるガバナンスとリスクマネジメントの監査

～業務監査では足りない組織運営の監査の方向と実務展開

子会社や部門の組織活動の監査では意思決定構造など業務コントロールとは違った観点やアプローチが必要となります。また業務監査中心の収益部門の監査とは異なり、本社の間接部門の監査でも業務プロセスとは異なる組織的な視点が重要です。これらの場合に重要となるのが、ガバナンスやリスクマネジメントの監査です。I I Aの内部監査の定義でも、組織のガバナンスやリスクマネジメントは、コントロールと並んで重要な監査領域とされています。ですが、多くの企業ではその監査アプローチは未開拓のままです。しかし、昨今の大企業の不祥事件はJ-SOXの実効性にも疑問を投げかけており、この領域の監査方法の整備は、内部監査の付加価値を底上げするという以上に、内部監査部門の責任として急務と考えられます。ガバナンスとリスクマネジメントはもとより経営的なインパクトが大きいだけでなく、昨今、企業風土への監査対応など不正や不祥事対策という点から注目されています。しかし準拠性監査の延長線上のような方法からうまく脱皮できていない企業もあるようです。今回は、子会社や事業部門あるいは本社機能の監査においてガバナンスやリスクマネジメントをどのように捉えて監査するか、その現実的な対応の方法についてわかりやすく解説します。

1. リスクマネジメントの視点から切り出す監査アプローチ
2. ガバナンス志向経営監査の着眼点と展開方法
3. 統制環境と組織風土に対する監査対応

◎講義をベースとしたディスカッション◎
16:30 ~ 17:00

第9回
5/9(木)
14:00~16:30

経営戦略を支える経営監査の手法

～経営層とバッティングしない経営監査の捉え方と実務展開

業務監査に比べると、経営に近い領域で問題を提起し改善を促す経営監査は、経営へのインパクトが大きく、貢献度も高いのは当然です。しかしその実務は日本ではあまり根付いておらず、むしろ内部監査の守備範囲を逸脱するとみなして遠ざけたり、経緯・ノウハウ不足でうまくできていないケースが見られます。こうして経営監査の捉え方・進め方が実務のネックになっている状況を踏まえて、今回は経営監査が理論的にも内部監査の枠内できちんと説明でき、かつ実務的にも経営戦略を支援する活動として十分展開可能だということを実際の進め方を紹介しながら解説いたします。典型的な経営監査とは、この事業部がなぜ赤字から脱却できないのかとか、この子会社はどのようなビジネス構造で事業に失敗したのかななどの疑問に対して事業体全体のビジネスモデルやリスクの分析から解決の方策をさぐるという監査です。これをビジネスモデル型経営監査と位置付けてその考え方やアプローチを解説し、事例などを通して具体的な方法を検討します。

1. 経営監査の切り出し方 — 業務監査との違いをサポートする論理と実務の整理
2. ビジネス・アプローチ型経営監査の進め方 — 監査アプローチと留意点
3. 経営監査の指摘や改善提案の事例解説 — 実際例から理解する経営監査のポイント

◎講義をベースとしたディスカッション◎
16:30 ~ 17:00

過去開催の参加者の声

- 非常にタイムリーな講演内容で大変参考になりました。新任内部監査人にも聞いてもらいたいと思いました。また全員参加が意識できる規模で大変良かったと思います。
- ご経験に基づいた説明で体系的に纏められており大変役に立ちました。
- 豊富な事例を元に説明して頂き大変参考になりました。資料も大変充実していました。
- 経営監査と業務監査の目的、対象の違いを構造化して理解できました、有難うございました。
- 参加他社の業種とのディスカッションに刺激を受けました。
- 普段考えていることが体系的に整理することが出来てとても参考になりました、有難うございました。
- 問題意識をもって参加させていただいた内容とマッチしていて大変参考になりました。
- 監査テーマ選定におけるリスクアシュアランスマップの考え方やガバナンス監査の成熟度モデルでの判定など、弊社でも検討観点として取り入れてみようと思います。
- 監査用語の定義を明確にした上での講義で大変わかり易かったです。

参加要項

受講料

正会員

216,000円 (本体価格200,000円)

一般

237,600円 (本体価格220,000円)

日時・テーマにより代理の方の出席も可能です。

一日単位での受講も可能です。※通信欄の受講希望日にをご記入下さい。

正会員: 31,320円(本体価格:29,000円) / 一般: 34,560円(本体価格:32,000円) × 参加日数

申込方法

下記申込書に所定事項ご記入の上、FAXにてお送りいただくか、下記担当者あてEメールにてご連絡下さい。また、当会ホームページからもお申し込み頂けます。([TOP] → [塾・ビジネススクール] → [6. 経営管理])

- ◆着信確認のご連絡後、受講票・請求書をお送りします。
- ◆お申込後のキャンセルはお受けしかねますので、ご都合が悪くなった場合、代理の方のご出席をお願いいたします。

お申し込み・お問い合わせ先

〒102-0083 東京都千代田区麹町 5-7-2 MFPR 麹町ビル 2F
TEL: 03-5215-3516 FAX: 03-5215-0951 E-mail: ishiro@bri.or.jp
一般社団法人 企業研究会 経営管理研究グループ 担当: 居代

FAX:03-5215-0951

2018年 内部監査実務マスター・コース 申込書

事業コード: 180188

申込日 年 月 日

会社名				
会社所在地				
TEL	FAX			
所属・役職名	氏名(フリガナ)			
E-mail				
受講希望 (いずれかに <input checked="" type="checkbox"/> 印をご記入下さい)				
<input type="checkbox"/> 全講座参加	<input type="checkbox"/> 第1回(9/6木)	<input type="checkbox"/> 第2回(10/4木)	<input type="checkbox"/> 第3回(11/15木)	<input type="checkbox"/> 第4回(12/13木)
<input type="checkbox"/> 第5回(1/19/17木)	<input type="checkbox"/> 第6回(2/7木)	<input type="checkbox"/> 第7回(3/7木)	<input type="checkbox"/> 第8回(4/4木)	<input type="checkbox"/> 第9回(5/9木)

※ご記入いただいた個人情報は、本セミナーに関する確認、連絡、及び、当会主催セミナー等のご案内に利用させていただきます。